

社会福祉法人 十字の園

ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)

発行: (福) 十字の園法人事務局
理事長 平井 章

住所: 〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
tel 053-414-1400
fax 053-437-1352



聖隷クリストファー大学付属クリストファーこども園との交流

わたしの趣味 『海を走る』

アドナイ館 施設長 上野 貢一



御殿場にいる時、沼津の千本浜によく行きました。近くには、若山牧水の歌碑や明石海人の歌碑があり、海を愛する人達があります。防波堤から駿河湾を眺めると、幾く隻かの漁船が漁をしています。いつしか海の上を走ってみたい、今の生活とは違ったことをしてみたいという思いになり、5年前2級小型船舶免許を取得しました。取得後は、暇を見つけては駿河湾を走り、時に大瀬崎で錨を下ろして泳ぎました。海の上から見る富士山は格別な趣があります。昨年、浜松に来て1級免許も取得し、浜名湖を走っています。シーズンを過ぎた浜名湖は、海風が肌にこちよいです。

1. 3月11日 その日、その時、私は

その日、駅前ホテル5階にいた。その時、突然縦に横に大きく揺れた、地震だ！。テレビを見て驚いた。大津波にさらわれる建物、火に包まれ、逃げ惑う人や車の惨状が映っていた。深刻さが増す中で、多くの人が思った。「何かしなければ」「私に何が出来るだろうか！」「私は何をしたらいいのか」

2. 十字の園のたった最初の行動

「伊豆高原十字の園の旧建物を震災地の避難所として提供できないか？」これが十字の園のたった最初の行動であった。理事会・評議員会において決議し、早速、静岡県、伊東市、全社協、福島県社協に伝えた。また、静岡県ボランティア協会を通じて岩手県にも伝えられた。結果として建物は使われなかったが、復興支援への行動起点となった。

3. 『十字の園情報』発行と募金活動開始

法人が一体となることを願って、「十字の園情報」を随時発行し募金の呼びかけと支援活動の情報を発信した。募金は具体的に活用されるために、第1次募金446,759円は「遠野災害ボランティア支援センター」の活動の支援、第2次募金224,721円は仙台のCLC（全国コミュニティライフサポートセンター）、東北関東大震災・共同支援ネットワークの活動の支援、第3次募金638,155円は日本キリスト教社会事業同盟の復興支援活動のために送金した。

4. 十字の園復興支援（岩手県編）

4月11日から聖隷グループは遠野まごころ寮を拠点に職員を派遣して活動を開始した。4月28日には十字の園から第5次隊として2名を派遣し、以後7名（延49人）の職員が大槌町民の入浴サービスを中

心として支援活動に加わった。

5. 十字の園復興支援（宮城県編）

4月11日平和の杜が中心になって、CLCが立ち上げた「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」に向けて車輛マナ号に支援物資を満載して仙台を拠点とした支援を開始した。宮城県内のボランティア送迎と物資輸送を中心に活動し、途中からは避難所内や福祉施設内での支援なども行った。

6. 十字の園復興支援（福島県編）

避難所が閉鎖され仮設住宅への支援に変わった。地元で雇用の職員が支援員に、介護は制度による事業所からの支援体制になり、十字の園の活動は終結した。

これまでの感謝とこれからの支援を模索するために、10月4～5日に仙台と福島を訪問した。飯舘村の「いいたてホーム」は福島原発事故後に避難地域に指定された所の特別養護老人ホームである。一時は100名余全員の避難生活の場所を探したが、適当な所がなく、多くの制約がありながらも、入居者にとっては最善のことと判断し、施設に留まって生活することを決断した。原発の影響もあり施設は孤立状態、しかし、職員たちは避難先から通勤して入居者の「笑顔」のために奮闘している。

ここでの支援活動を十字の園の「使命」と受け取った。これからの支援活動だ。

「利用者に笑顔、職員に笑顔」を！
お祈りください。ご協力ください。



十字の園ができた頃

社会福祉法人十字の園 理事 長谷川 新



もう遠い思い出になりますが、私は聖隷三方原病院の中で生まれ、育ちました。十字の園がある敷地は聖隷から離れた、谷越え、林の中の細い山道の先の松林でした。自動車で行くには大回りし、金指街道廻りです。そこには看護婦養成所があり、日曜日には、教室を会堂にし、日曜学校が行われていました。綿鍋元理事長が校長先生です。日曜の朝、まだ朝露に濡れていた笹を分けて、年長の子供を先頭に、日曜学校に行くのが聖隷の子供たちの日課です。この地にハニ姉妹の熱意と鈴木生二さんや多くの方々の努力により、現在の特別養護老人ホームの原型になる老人ホーム「十字の園」が出来、大谷川に「十字の大橋」が架かり、病院から直接来ることが出来るようになります。

今から50年ほど前になりますが、中学生の頃、夏休みの10日ほどを、兄と共に床拭きのボランティアをしました。父、保も昔の経験を生かし洗濯の応援をしていました。これが私の福祉の仕事との関わりが出来たスタートです。ディアコニッセの方々の人間性溢れた献身的な仕事を知る事もできました。

聖隷で働くようになり、35年ほどになりますが、私の経験から仕事をする上で、最も大切なものは、「謙虚さ」を持ち「ご利用者の目線」に立ち考えることだと思います。特に福祉では必要です。私の座右の銘に「我以外、みな我が師なり」があります。どんな人からも、学ぶ事が出来る。謙虚さがあれば学ぶところを持つことが出来る。この心を失えば独善と慢心となり、失うものばかりになるでしょう。たった10日の十字の園での経験が、私の大きな原点の一つになっています。感謝です。

オープンから6ヶ月

ひだまり 松本 有里

二枚橋デイサービスセンター『ひだまり』は、御殿場十字の園から車で7分弱の平屋建ての一軒屋です。この10月で開所6ヶ月を迎えました。

古き良き日本家屋の良さを活かし、家庭的な雰囲気の中で一日を過ごしていただけることを想いリフォームに取り組みました。現在一日平均6名~7名の方にお越し頂いています。



庭に面した広い縁側では、足を伸ばしてのんびり日光浴に興じることが出来ます。また昔ながらの鏡台を置くと、ここは一瞬で整容スペースに様変わりします。日本家屋の合理性・多様性というものを垣間見た気がします。

庭では群生する茗荷や柿等を収穫し、畑を開墾してトマトや胡瓜、茄子等の夏野菜を育てました。収穫した野菜は文字通り地産地消として昼食に。皆さんに喜んでいただくことができました。

台所は昔ながらの広い作りであるため、職員と一緒に皿の洗い拭きや洗濯物干し等の家事をしていただいています。

話は変わりますが、今年の8月から看護師による個別機能訓練を開始しました。一時間弱の時間の中で、皆で顔を合わせて手足の屈伸運動をしたり、アクティビティゲームを行うなどして体の機能維持に努めています。今後の取り組みとしては、『ひだまり』を利用して下さる方ひとりひとりの個別的な関わりを大事にし、在宅生活が少しでも長く維持出来るよう自立支援をしていきます。



『ひだまり』を利用して下さる方々が「ここに来てよかった。」と思っ頂ける様なデイサービスにしていきたいと考えています。

2011年度 十字の園大会 松崎にて開催

『創立の精神こころから新たな福祉に挑戦チャレンジ』

自由に生きるを保障する(一人ひとりの欲求をどう実現するか)

10月20日(木)、21日(金)の2日間に渡り「第16回十字の園大会」が松崎十字の園を主催施設として「自由に生きるを保障する」をテーマに開催されました。会場の松崎教会に法人各施設より60余名が参加され、創立の精神であるキリスト(十字架)を感じながらの大会となりました。



開会挨拶の中で、平井理事長は「今年度の第16回十字の園大会からは50周年記念大会のテーマ『創立の精神(こころ)から新たな福祉に挑戦(チャレンジ)』を主題にして開催していきたい」と話されました。引き続き、東日本大震災に対する十字の園の復興支援活動の報告やこれからの復興支援計画、「つながろう復興支援の心、つなげよう復興支援の力」と熱く語られました。

基調講演には星野正興牧師(日本基督教団松崎教会)をお迎えし、「自由に生きるを保障する」を主題として聖書で言われている「自由」などについて講演をしていただきました。また今回は、各施設発表という形式ではなく各施設混合のグループに分かれ、分科会形式でグループワークを実施しました。グループごとに別々の宿に宿泊していただき交流を図りながら2日目も会場を分けてグループワークを実施しました。最後に10グループの発表が行われ、グループごとの個性と自由に対する多くの考え方や発想が紹介されました。



基調講演 テーマ 「自由に生きるを保障する」(星野 正興 牧師)

最近の出来事で牧師の友人が、小競り合いを止めに入ってから警察に誤認逮捕され、今もなお拘束されているという衝撃的な話から始まりました。憲法により全ての国民は自由を保障されているにも関わらず、権力の力で善良な人間の自由を奪い不当な拘束が今もなお行われている現実を身近に感じ、改めて(身体)拘束について強く考えさせられました。

福祉施設や家庭においても「忙しいから」とか、「他人に危害を加えるから」と言う一方的な理由で、拘束が日常化している今だからこそ、その状況にある方たちを解放し、本当に穏やかな自由へ招き入れる事が私たちの使命ではないでしょうか。

星野牧師が語られた内容は「聖書で言われる『自由』とは、モーセがイスラエルの民をエジプトから、カナンの地へ脱出させた。その時『エジプトからの自由』と『カナン(希望)への自由』と言う2つの自由があった。また自由には『する自由』と、『しない自由』がある。私達はその2つの自由の内、良い方の自由を選べる様に、自分の考えを絶えずしっかり持ち続ける為に、聖書を持ち、日々学びを続けて行かなければならない。」というものでした。

老人ホームは拘束の場であるという感想をもつ人も居ます。その事を忘れてはいけません。そうならない為には、全体が希望に向かっていることが大切である。希望とは即ち、利用者が神の国に向かう事。神の国への希望を入居者と共に分かち合える事が本当の自由へと解放されていく事であると信じています。これが十字の園に有り、他の施設には無い事だと思えます。

松崎十字の園 山本 貴一 記



グループワーク報告

Aグループ

チームワークを上手く取り、職員は利用者に寄り添い、ゆとりを持った介護を行ない、利用者からの自由な希望を見つけ出せるようにする。施設に於いて「主体は利用者である。」ということをお忘れなければ、利用者の自由は保障される。

Bグループ

職員も制度、施設の方針等に少なからず拘束されている。限られた制度、スペースを最大限に活用し、利用者の「生きる自由を保障」出来る十字の園でありたい！

Cグループ

他職種との連携を上手に取り、利用者に耳を傾け向かい合うことで、希望を知り、希望に向かう事が利用者の自由につながる。それには職員一人ひとり学び考えることが大切。



Dグループ

全ての望み、自由を施設（集団生活）の中で叶えていくのは難しいが、お年寄りの少ない願いを、実現へ向けて行くには、願いを伝えやすい環境と信頼関係を築く事が大切。

Eグループ

職員のやる気と工夫で希望に向かいます。心を開いていただけるような寄り添い、優しい言葉を待っている。老人ホームを拘束の場と感じさせないためにはホーム全体が希望に向かうこと、本当の自由とは信じる心をもつこと、信仰を持つことだと学びました。否定するのではなく、肯定する心も大事。人間は一人では生きていけない、まわりの人との絆が大切です。福祉という字は「神様がここにとどまる」と何かの本に書いてあった。

Fグループ

今施設の中で生活している利用者が心の中にくもりや、もやもやを抱えながら、夢を持ち続けている。お年寄りの歩みを、ありのままを、寄り添いながら過ごさせていただく。それを理解できる職員がいてこそ、「自由を保障する」を実現できる。



Gグループ

今ままで出来なかった事を実現するには、見方を変える、固定観念を変える必要がある。自由の対比は責任である。利用者の「自由を保障する」その自由をわかるようにするには、その利用者をよく見る必要がある。

Hグループ

そばに立って、そのかたの想いを聞く。どのように実現していこうかと、チームワークを持って一緒に考える。

Iグループ

- ・その人の持っている可能性を信じてあきらめない。
- ・平日頃自分自身の欲求を伝えることの出来ない人については、思いをどう引き出していくのか？考えながら接していくこと（気付く力）が必要。
- ・個々の人生観、価値観を共感し、共有する。
- ・一歩踏み出す力を後押しする。イメージしやすく、想像しやすくし実現（満足）に近づける。

プログラム

第1日目

10月20日(木)

司会 馬場 弘

13:00	開会の言葉 三條洋二	開会宣言
13:10	開会礼拝 的場恵美子牧師 (日本基督教団 下田教会)	説教 「愛によって仕える」 聖書ガラテヤの信徒への手紙 5章13~14節
13:30	理事長挨拶及び震災の事 平井 章	主題『創立の精神から新たな福祉に 挑戦』(東日本大震災被災地応援について)
14:50	基調講演 星野正興 (日本基督教団 松崎教会)	『自由に生きるを保障する』
16:00	オリエンテーション	
16:30	各民宿移動	
17:30	夕食 テーマに基づいて自由討議	

第2日目

10月21日(金)

司会 馬場 弘

7:00	朝食	
9:00	分科会	会場 松崎教会 松崎十字の園 うさぎビル
11:15	移動	
11:30	グループ発表	会場 松崎教会
12:00	講評 森茂廣	
12:30	閉会礼拝 星野正興牧師 (日本基督教団 松崎教会)	説教 『希死念慮』 聖書 ヨハネによる福音書 14章 6節
13:00	閉会の挨拶 三條洋二 来年度主催施設御殿場十字の園 テーマ発表	希望について

生き生きクラブの活動

御殿場施設介護支援専門員 田代 みどり

御殿場十字の園を利用されている方の生活が充実できるように何が出来るかアンケートをとって「出来ることから始めよう」と7月から月2回の時間を設けて企画しています。

1回は映画鑑賞会…昭和のコントや名画、宝塚のショー、人気アニメ等ジャンルは様々ですが、リクエストをお聞きして大きな画面で観ていただいています。



もう1回は季節にちなんだものを取り入れています。制作物は、葉書サイズの小世界に塗り絵・水彩・貼り絵・パステルと手芸を変えて創る充実感を。

9月にはミニ運動会を実施して、歓声をあげながら皆で動く連帯感を感じていただけたのではないかと思います。毎回新しい発見があり「次は何か？」と期待する笑顔が次回にと繋がります。

これからも利用者の声に耳を傾けて、ユニットでの個別対応・全体ならではの出来ることに着眼して、職員と共に生活が活性化出来るように楽しみながら取り組んでいきます。



『行ってきました 舞阪!』

伊豆高原十字の園 ユニットリーダー 鈴木 雪枝

以前より「舞阪に行きお墓参りがしたい。」と話されていた山口さん。今年も春ごろより舞阪に行きたいと言われ、「舞阪は遠いですよ。」の言葉に、いつもは「そうか。」と納得されていましたが、今年は違っていました。「身体と足も、車にも自信がある。」と何回も言われました。山口さんの身体の強さを信じ、10月27日に決行。

当日は、朝食後に施設を出発。途中、何度かサービスエリアに立ち寄り休憩をとりました。無事お墓参りを終え、昼食です。浜松といたら・・・うなぎ。もちろん完食!

夕方、施設に戻られましたが、「やっぱりむこうのうなぎは旨いナァ。」と笑顔で話される山口さんでした。いつまでもお元気でいて下さいね。101歳バンザイ!



ボーリング大会

松崎十字の園 山本 健太

松崎十字の園では、9月に互助会主導による職員交流の場としてボーリング大会を2日間に分けて開催いたしました。ケア・看護・給食・事務・そして施設長も含め、職種の垣根を越えてチーム編成を組み勝敗を争いました。当日、会場にはストライクを取った方の喜びの雄たけびやガーターを出した方の悲鳴が響き渡りました。そして、優勝チームには豪華商品が??が、そうでなかったチームにも豪華参加賞が配られました。しかし、それよりなによりも、その表情には笑顔があふれ一人ひとり仕事ではなかなか見られない



姿が新鮮だったのではないのでしょうか。ボーリング大会を行なった後では、職員同士の関係の質も高まり、仕事にも良い影響をもたらしてくれています。今後も十字の園職員が一つのチームであり仲間である為に職員交流の機会を増やせて行けたらと思います。

そして、いつの日かそれぞれの十字の園対抗で運動会でも出来れば・・・と、心の中で思っている職員もいるのではないのでしょうか。



『いつまでもお洒落でいたい!!』

伊東市立養護老人ホーム 山田 敬紀

毎年2回、初夏と秋口に施設内で衣料販売が行われます。普段外出が難しい入居者にとっては楽しくも大切な買い物の機会となるため、衣料販売の日は朝から落ち着かない入居者もいます。

午後、たくさんの荷物が集会室に運びこまれ、業者がダンボールから取り出した洋服をハンガーに掛けたり、机に並べていると、待ちきれない入居者が早速商品を見て回りますが、そこは我慢していただき、いつもの集会室が即席の洋服販売店になるのを待ちます。

男性の場合、たいてい事前に何が必要かきめておいてお目当ての物を探しますが、女性の場合は、買物そのものが楽しいのでとても時間がかかります。今回も予定時間を越えてしまいましたが、まだまだ見足りないと言う表情でした。今回は秋口なので冬物衣料を中心に販売され、お互いに「このカーディガン暖かそうよ!」「この色のセーターの方が似合うわよ!」と探し合ったり、評価し合いながらみなさま本当に楽しそう。

普段からお洒落にこだわり、洋服もたくさん持っているOさんもそのひとり。いつもは車椅子を手放せない方ですが、この日は職員もビックリ!立位を保ったまま買い物を楽し



んでいたのです。「Oさん大丈夫?」と聞いても目は洋服にくぎ付けで、立っていることを忘れて買い物を楽しまれていました。職員の心配をよそに、買った後の顔が本当にうれしそうでお洒落に限らず、いくつになっても着飾ったり、買物を楽しむのは必要な事なのだ実感しました。

震災支援活動を支えていただき ありがとうございました

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◆◆◆◆◆
法人事務局長 鈴木 新

十字の園では法人全体で東日本大震災支援活動を行ってきました。救援募金として①4万6759円（静岡県ボランティアセンター・岩手県遠野市）②22万4721円（CLCひなたぼっこ・仙台市）③63万8155円（日本キリスト教社会事業同盟復興支援募金）を送金しました。3月22日理事会に於いて法人として支援活動に取り組むことを理事長が表明し、伊豆高原十字の園旧建物を被災者受入施設とすることを静岡県に申し入れました。施設は利用されませんでした。支援活動の行動起点となりました。同じ頃、日老・聖隷・十字の園等の法人が合同で岩手への職員派遣を検討し、又仙台CLCから支援活動要請もあり、法人として十字の園職員の中から希望者を被災地に派遣することを決めました。4月11日から仙台市と遠野市に派遣を始め、196日間、派遣職員は31名、活動延人数は412人となり10月23日一旦終了しました。被災地へ行った職員、施設で支えた職員、支援物資や募金に協力いただいたご利用者・ご家族・職員のみならず支援活動を行うことができました。感謝です。これからもかたちは変わっても、法人全体で復興支援をつなげていきましょう。

2011
平成23年度

永年勤続者表彰名簿 (25名)

ありがとうございます。これからも元気で良い働きができますように！

勤続年数	氏名	施設名	就職年月日	勤続年数	氏名	施設名	就職年月日
35年	平井 章	法人事務局・理事長	昭和50年 5月 6日	10年	大西由佳利	御殿場十字の園	平成12年 6月 1日
25年	松田みどり	御殿場十字の園	昭和60年 6月 1日	10年	小野 真樹	御殿場十字の園	平成12年10月 1日
20年	重永 仁美	伊豆高原十字の園	平成 3年 4月 1日	10年	高橋 千春	御殿場十字の園	平成13年 4月 1日
20年	小宮山 純	御殿場十字の園	平成 2年11月20日	10年	稲葉 雅一	伊豆高原十字の園	平成13年 3月 1日
20年	小澤 博和	第2アドナイ館	平成 3年 4月 1日	10年	山崎 一恵	伊豆高原十字の園	平成13年 1月15日
20年	渥美 智子	浜松十字の園	平成 3年 4月 1日	10年	岡 信江	伊豆高原十字の園	平成12年 7月20日
15年	高田 米子	御殿場十字の園	平成 7年 5月 1日	10年	小川 秀幸	伊豆高原十字の園	平成12年 5月 1日
15年	塩谷 幸枝	御殿場十字の園	平成 7年11月 1日	10年	小杉 佳弘	浜松十字の園	平成12年 7月 1日
15年	杉山 潔	御殿場十字の園	平成 8年 4月 1日	10年	山本 隆弘	浜松十字の園	平成13年 4月 1日
15年	山田 裕子	伊豆高原十字の園	平成 7年 5月 1日	10年	里見 敏和	伊東市養護老人ホーム	平成12年 4月 1日
15年	寺田 幸子	浜松十字の園	平成 7年 8月 1日	10年	水口 朱美	伊東市養護老人ホーム	平成12年 4月 1日
15年	森島 信幸	浜松十字の園	平成 7年12月18日	10年	渡邊 直明	松崎十字の園	平成12年 9月 1日
15年	大橋ひろみ	浜松十字の園	平成 8年 4月 1日				

復興支援募金継続中 ご協力を!!
皆様の温かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園

理事長 平井 章

銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345

あ **と** 今回号から施設長の趣味をリレーで紹介してゆ
が **き** きます。一えっ、あの
人にこんな趣味が・・・！
ワーク・ライフバランスを上手に
保ち、心にも栄養を。もちろん主
食はみことばですネ。 (輪)